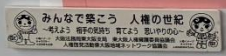
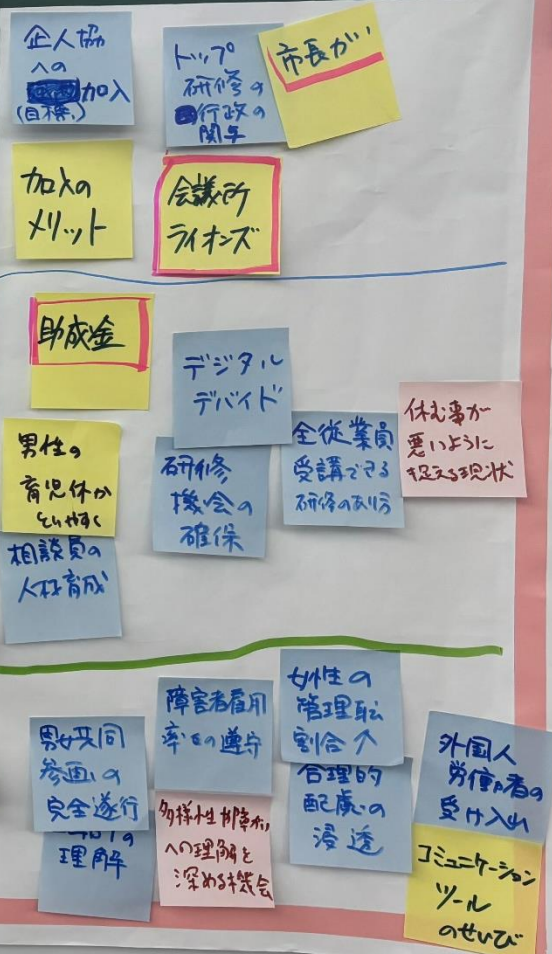
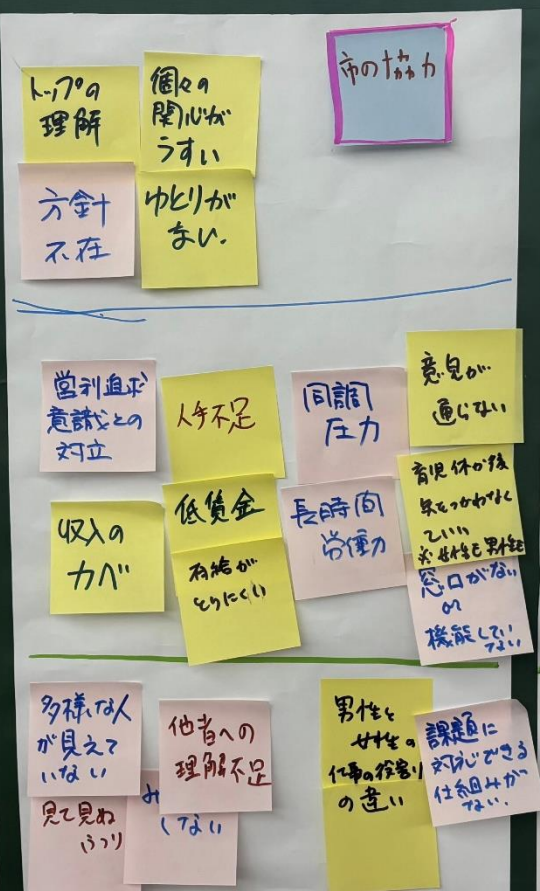
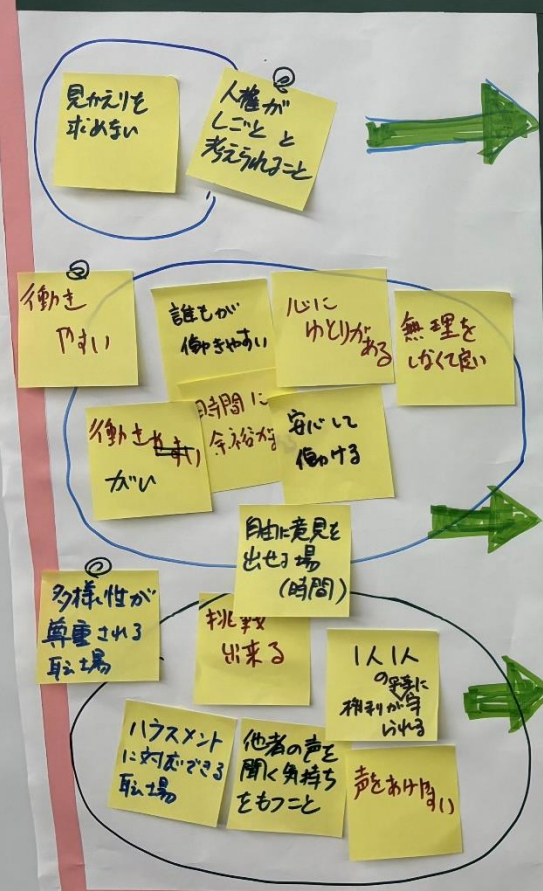


第1回ワーキング部会 B. 職場・地域 ワークシート

職場でめざしたい
人権教育・啓発の目標(姿)

目標の実現を阻んでいると
思われる障壁(原因、背景)

取り組むべき課題



<グループ発表>

『職場』のワーキングの方の発表をしたいと思います。

まず、『職場でめざしたい人権教育・啓発とは』の目標です。これを大きく分けて3つです。

「人権が仕事と考えられること」

「働きやすい」

「多様性が尊重される職場」 ということになりました。

◆目標の実現を阻んでいると思われる障壁(原因、背景)

「人権が仕事と考えられる」というのは、やっぱりトップの理解がなければ、なかなか難しいという意見。そして、やっぱり八尾市の協力とかも必要だなというのがありました。

「働きやすい」となると、収入の壁、人手不足、あとは同調圧力とか、長時間労働があります。職場環境の働きやすさが必要なのかなという話になりました。

「多様性が尊重される職場」では、職場にはいろんな人がいるが、多様な人への配慮では、見て見ぬふりをするとか、男性と女性の仕事の役割の違いがあり、考えながらやっていくというのは難しい障壁というものになっているのではないかな、という話になりました。

◆取り組むべき課題

「人権が仕事と考えられる」ということに取り組むべき課題は、いろんなところの協力が必要なのかな。ワークシート「ピンク」の格好で囲まれている「市長」とか、「ライオンズクラブ」などの協力がいろいろやっていかないとだめじゃないかなという課題かな、となりました。

「働きやすさ」というのは、今、世代間の格差というのも結構あると思います。デジタルデバイドという問題です。ITとかを扱えるか使えないかというのもあつたりします。あと、男性の育休が取りやすくとくとか。そういうことが「働きやすさ」にもつながっていきます。でもこの辺はやっぱりあまりできていないです。

「多様性が尊重される職場」では、障がい者の雇用、女性の管理職、合理的配慮、外国人など、多様な人々への理解を深めるような機会とかが不足しているというのが課題。こういうふうな感じで今回の職場のワーキングは終わりました。

「助成金」って、私は営利を追求する企業の人間ですけれども、そこのトップ、要は社長とかね、そのクラスの間が理解するにはタダではやりにくく、ちょっと助成金とか何かしらのメリットがあれば。これが人権を仕事として捉えてもらえるようなところがあるので、その辺の助成金を捻出するのに「市長、頑張ってください」ということです。

第1回ワーキング部会 B. 職場・地域 ワークシート

地域でめざしたい

人権教育・啓発の目標(姿)

① ~~顔~~顔がたえない地域を作る

② 地域の団体の連携を深める

③ 橋となり近所の井戸堀会議の有る町

④ 住みたいと思える街

目標の実現を阻んでいると

思われる障壁(原因、背景)

若者の参加が無い

「人権」がひとり歩きしている

① 世代交際の機会があまりない

② 合同の会があまりない

③ 祭りの企画があまりない

④ 各団体の年次イベントが少ない

⑤ 無感な住民が多い

⑥ 見て見ぬふりが増えている

⑦ 長年続いている慣習

⑧ 若者の意見が聞かれない

⑨ 子育て世代への孤立

⑩ 民間団体の存在が薄い

⑪ 町と村のつながりが薄い(目に見えない)

⑫ 世代間交流が不足している

⑬ 地域内での課題の共通認識が不足している

⑭ 若者の意見が聞かれない

取り組むべき課題

①

各団体のリーダーの交際の機会を創出

② 各団体のリーダーの意識を高める

③ リーダーの人権意識を高める

④ 関心を持って取り組む

⑤ 自分事として考える人権啓発

②

⑥ 若者の意見が聞かれない

⑦ 若者の意見が聞かれない

⑧ 若者の意見が聞かれない

③

⑨ 子どもと大人が一緒に活動する機会を創出

⑩ 世代間を超えた協力を創出

⑪ 助け合える関係づくり

⑫ 家庭支援員としての充実

⑬ 無関心な意識を創出

<グループ発表>

地域における「人権教育・啓発の目標と課題」ということで話し合いました。大きな目標として「笑顔が絶えない地域を作る」ということが大目標です。

この目標に向かって、小さな目標を3つ作りました。

「地域団体との連携を深める」

「となり近所の井戸端会議など、ある町」にしたい

「住み続けたいと思う街」にしたい

「地域の団体との連携を認める」の障壁は、世代間交替が出来ていない。過去の団体ごとの合同会議がない。祭りなどをした際に応援がもらえない。団体毎の年齢のギャップがあって、これが障壁になっている。このようなことが出ました。

取り組むべき課題としましては、各団体のリーダーの意識を変えていく。各団体リーダーの交替。他団体のこともやっぱり理解していく、関心を持つという課題となりました。

「隣近所の井戸端会議のある町」の障壁はいろいろありまして、子育て世代が孤立しているところがあるので、これをやっぱり理解して援助していくような方向にする。旧村と新しい住宅地の隔たりがあって、これが目に見えない障害となっている。

それから、既得権というか、やっぱり前からの人の意見が強いところがありまして、既得権の存在というのがこういう障壁になっているということです。

これに関して取り組むべき課題は、誰でも参加することができるような居場所づくりによって、住民間の交流を図っていく。若い人の意見なども取り入れて、世代を超えた意見交流をしていく。誰でも立ち寄れる場所や立ち入ることができるような居場所づくりをしていくというのが課題となりました。

そして「住み続けたいと思う街」として障壁は、世代間交流が欠けている。地域が抱える問題の相違がある。必要としている人に対して、答えが届いていないということが障壁となっている。

これに取り組むべき課題としましては、世代を超えた協力をしていくとか、助け合える関係づくりを作っていく。例えば、子育てに困っている人がいたら、そのようなところに対しても、家庭支援の充実ということが課題となります。そして、無関心で関心を持っていない人の意識をやっぱり変えることによって、人権づくりにつなげていくという、取り組むべき課題が出ました。

当初は人権というよりも、福祉の問題という形で出てしまったのですが、アドバイスをもらって、どうにか人権のところに漕ぎつけていくことができたかなと思っております。以上です。

<質問・補足>

◆『人権』が独り歩きしているというのは？

自分にも人権があり、相手にも人権がある、というところで、人権と人権がぶつかった時に、これを言ってしまうと相手に人権侵害だと言われたら、言えなくなってしまふ。炎上したら嫌だ、という形で人権だけが独り歩きというか、あっち行ったり、こっち行ったりして、要は、ここでは無関心であるとかという形になって、本来「困っている人がいるから助けようかな」と思った時に、それを言ってしまうと相手側が「いやちょっとそれは人権侵害だからもう聞かんといってくれ」と言われてしまったら、もう聞かなくなってしまう。相手がどう思っているかわからへんけども、そういった形で人権という部分が、もう自分らの意識を飛び越えて、歩いて行っているから無関心になってしまう。それぞれ人に任せるとか、こういう状態になっていって、地域として、笑顔にできないとか。タブー視するって感じです。